

に、「幼稚園」とすべきだと考え、それ以外にないと思つた。原著のナースリースクールは、二、三、四才を対象とした幼児教育施設であつて、厳密には日本にはない制度である。しかし、実際には日本の幼稚園は、三、四、五才を対象とする幼児教育施設であつて、アメリカのナースリースクールを實質的に包含している。アメリカでは幼稚園というと、就学前一年間の一年保育の部分だけをいうようになってきている。だから、キングダーガルテン・ブライマリー、すなわち、幼稚園および低学年と結びつけていわれることが多い。そして、そのような書物の大きな関心は、子どもの興味を中心とするカリキュラムの展開である。それに対して、ナースリースクールは、もっと幼児の人間理解を強調している。日本の幼稚園は、子どもの年齢からいっても、保育内容からいっても、この両者を包含している。

ナースリースクールを保育所と訳しているものもときどき見られるが、これは誤訳である。上村哲弥先生から御指摘いただいたように「幼児保育学校」とすれば最も忠実な訳であるが、日本には残念ながらそのような名称でよばれている施設はほとんど

ない。しかし、ナースリースクールで行なっていることは、実際には幼稚園で行なっているはずであるし、現行の制度では、日本の幼稚園はナースリースクールの機能を負わねばならないものである。

この書物の日本版への序文に次のように記されている。

「今日の世界は、危険も一ぱいあるが、また、新しい期待や望みも満ちあふれているのである。今日の世界は、かつてなかったほどに、もっともっと、お互いに人間として理解しあう必要にせまれている。……私たちが、もっと人間をよりよく理解できるようになった時にのみ『人間の、人間に対する残酷さ』から解放されて、すべての人類が到達しうる、より大きい人間愛へと転じ得る希望を、もつことができるのだと思ふ」

この書物が幼児教育関係の者にひろく読まれることによつて、日本の幼稚園はもっとよいものになり、日本の幼児はもっとよく育ち、日本の社会はもっと豊かな望みに満ちたものとなるのであろうことを確信している。この翻訳を短時日の間に立派に完成された訳者に深く敬意を表したい。

## 幼児の教育 第六十六巻 第二号

二月号 © 定価八〇円

昭和四十二年一月二十五日印刷  
昭和四十二年二月 一 日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番  
◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします